

人気のプログラムが 装いも新たに登場！ 小山実稚恵ピアノ・トリオ 夢の響演



©Hideki Otsuka

ヴァイオリンの堀米ゆず子さん、そしてチェロの堤剛さんと、彩の国さいたま芸術劇場でまたトリオができることは、私にとっての何よりの喜びです。ブラームスの室内楽シリーズでの共演はリハーサルもコンサートも全てがとても刺激的でした。毎回のリハーサルの前に、家では1人でピアノパートを練習するわけですが、その時に「堀米さん、堤さんはここをどのように弾かれるのだろうか」と2人のヴァイオリンとチェロの響きを想像し、頭の中で鳴らしながら作品と向き合うのは至福の時でした。そしてリハーサル。生の響きにお互いが反応し合いながら本番までに1つの音楽を作り上げていく道中は、まさに音楽の醍醐味です。

今回はベートーヴェンの「大公トリオ」とチャイコフスキーのトリオ「偉大なる芸術家の思い出に」、最高のプログラムでのコンサートです。まったくカラーの違う2つの作品がどうなっていくのか、本番が今から楽しみです。

小山実稚恵 **ピアノ Michie Koyama, piano**

1982年チャイコフスキー・コンクール第3位、85年ショパン・コンクール第4位と日本人として初めて二大国際コンクールに入賞、国内外で目覚ましい活躍を続けている。2006年6月からはBunkamuraオーチャードホールにて春・秋年2回ずつ2017年まで「12年間・24回リサイタルシリーズ「小山実稚恵の世界」〜ピアノで綴るロマンの旅」に取り組み大きな注目を集めている。2005年度文化庁芸術祭音楽部門の大賞、2005年第7回ホテルオークラ音楽賞を受賞。

小山実稚恵

小山実稚恵さん、堤剛さんとは、彩の国でブラームスのピアノを含めた室内楽で、足掛け5年ご一緒しました。最初はなんと長大な企画であろうか、完結できるであろうかという不安もありました。しかし、最初の年、ピアノ五重奏の音が出ると、熱気を帯びた皆さんの音楽作りにも私共も啓発されて、すぐ夢中になり、気がついたらあっという間に5年が過ぎた……というのが正直なところ。それだけ「気心が知れてきた」のかも知れません。

今回はブラームスではなく、ベートーヴェンとチャイコフスキーのこれもまた2大名曲を演奏します。小山さんのいつも均整の取れたピアノの響き、堤さんのますます油の乗ってこられた情熱のチェロとの共演、今からワクワクしています。乞うご期待!!

堀米ゆず子 **ヴァイオリン Yuzuko Horigome, violin**

1980年、ベルギー・ブリュッセルにおけるエリーザベト王妃国際音楽コンクールで、日本人として初めて優勝。ヨーロッパを中心に世界各地でオーケストラとの共演、リサイタルのほか、室内楽にも積極的に取り組み、アメリカのマールボロ音楽祭にしばしば参加、最近ではマルタ・アルゲリッチとも共演している。現在、ブリュッセル王立音楽院客員教授。使用楽器はヨゼフ・ガルネリ・デル・ジェス(1741年製)。

堀米ゆず子



ベートーヴェンの「大公」、そしてチャイコフスキーのトリオというまことにスケールの大きな、しかも密度の濃いプログラムを小山実稚恵さん、堀米ゆず子さんという名手お二人と演奏することが出来ますのは私にとって本当に幸せなこと。お二人はピアノ・トリオという室内楽的な調和を求めながらも同時に、各々がソリスト的な個性をきらめかせ、しかもお互いが競い合うときもあり、ジャンルに最もふさわしい演奏家だと思います。

そこで私の役割はそのお二人をある時にはサポートし、またある時にはチェロの魅力を発揮させながら競いの中に加わることです。お客様にこの奥深く、エキサイティングなプログラムを十分に堪能して頂けたら、私たちにとても大きな喜びです。

堤 剛 **チェロ Tsuyoshi Tsutsumi, violoncello**

1963年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクールで第1位入賞を果たし、以後内外での本格的な活動を開始。現在に至るまで、世界各地でオーケストラとの共演、リサイタルを行っている。これまでに受賞した主な賞としては、「1992年日本芸術院賞」をはじめ、「第2回サントリー音楽賞」、「ウジェーヌ・イザイ・メダル」、「1988年中島健蔵音楽賞」などがある。2001年から霧島国際音楽祭の音楽監督を務めている。2004年4月より桐朋学園大学学長の任にある。

堤 剛

小山実稚恵 ピアノ・トリオ 夢の響演

【日時】12月3日(日) 開演15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲名】ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲第7番 変ロ長調 Op.97「大公」
チャイコフスキー:ピアノ三重奏曲 短調 Op.50「偉大なる芸術家の思い出に」

【出演】小山実稚恵(ピアノ) / 堀米ゆず子(ヴァイオリン) / 堤 剛(チェロ)

【チケット(税込み)】一般 S席 4,000円 A席 3,000円 学生 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円

【発売日】メンバーズ 9月18日(月・祝) 一般 9月23日(土・祝) ※発売日が変更になりました。訂正しお詫言申し上げます。

彩の国さいたま芸術劇場で過去10回も公演してきた、人気のプログラム「小山実稚恵と仲間たち」が、今度はピアノ・トリオとして帰ってくる。

ピアノは小山実稚恵さん、ヴァイオリンに堀米ゆず子さん、チェロには堤剛さん。気心の知れた3人が、今から楽しみにしているというこの演奏会。

3人からのメッセージを届けよう。

モーツァルト・イヤーを 締めくくる究極の公演！ バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》



©K.Miura

Bach Collegium Japan, chorus & orchestra

バッハ・コレギウム・ジャパン

合唱&管弦楽

世界の第一線で活躍するオリジナル楽器のスペシャリストを擁して1990年に鈴木雅明が結成したオーケストラと合唱団。特にJ.S.バッハを中心に、バロック音楽を理想的に上演し、「J.S.バッハ:教会カンタータ全曲録音シリーズ」(スウェーデン・BIS社)などのCDや欧米ツアーも高い評価を得ている。



©shuto mikio

Masaaki Suzuki, conductor

鈴木雅明 すずきまさあき
指揮

東京藝術大学作曲科卒業。同大学院オルガン科修了後、スウェーデン音楽院へ留学。1990年、オリジナル楽器アンサンブルと合唱団「バッハ・コレギウム・ジャパン」を結成。数々の受賞の他、01年ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章を受賞。03年辻荘一・三浦アンナ記念学術奨励金受賞。現在、東京藝術大学教授。

なかで、抜きん出てドラマティックな作品だ。けれどそれでも、18世紀の宗教音楽であることには変わりはない。BCJの精緻にして伸びやかな合唱、楽器の音色を知り尽くし、それを理想的に響かせる術を心得た演奏家で構成されるオーケストラ、人気沸騰の森麻季に、若手の実力派ドミニク・ヴェルナーやアンドレアス・ヴェラーら豪華なソリストたち、そして何より作品のたたずまいを蘇らせることに情熱を注ぐ鈴木雅明の指揮は、そのことを改めて教えてくれるのではないだろうか。絶対に聴き逃さない公演である。

モーツァルトの生誕250周年となった今年を締めくくるにふさわしいコンサートが開かれる。それはバッハを専門とする人気合唱団&オーケストラ、バッハ・コレギウム・ジャパンがモーツァルトに取り組むという公演。その魅力と聴きどころとは?

文:加藤浩子(音楽評論家)

2006年、クラシック界は「モーツァルト・ブーム」に沸いている。故国のオーストリアはもちろんだが、日本での沸騰ぶりも格別で、1月に生地のザルツブルクで行われた生誕250周年記念コンサートも夏のザルツブルク音楽祭も、大勢の日本人でにぎわった。

その喧騒も一段落。秋以降は、モーツァルトが没した12月を中心に、各地で行われる《レクイエム》の演奏が注目を集めそうだ。

なかでも音楽ファンならぜひ足を運びたいのが、日本の誇るオリジナル楽器の合唱団&オーケストラ、「バッハ・コレギウム・ジャパン」(以下BCJ)の《レクイエム》。指揮者の鈴木雅明が率いるBCJは、その名の通り古楽、とくにバッハを専門とする団体だが、やはり彼らにとっても今年は特別、満を持してモーツァルトに乗り出した。バロックからスタートして、たちまち古典派へとレパートリーを広げてしまう古楽団体の多いなかで、じっくり腰をすえてバッハに取り組んでいるBCJは貴重な存在だが、そのBCJがモーツァルトに進出するからには、万全の演奏を期待していいだろう。彼らの実力は世界でも高く評価されており、これまでにニューヨークのカーネギーホールや、アムステルダム・コンセルトヘボウをはじめとする一流ホールに客演、大喝采を受けている。

モーツァルトの《レクイエム》は、彼のおびただしい作品の

Maki Mori, soprano

森 麻季
ソプラノ

©Yuji Hori

ドミンゴに認められ、ワシントン国立歌劇場でアメリカデビュー。以来、ワシントンとロスでドミンゴ、フォン・シュターデ、アラニャらと共演し絶賛を博す。小澤征爾、ジョン・ミュンファンをはじめとする指揮者や内外のオーケストラとの共演も数多い。2007年ドレスデン国立歌劇場《薔薇の騎士》に出演予定。出光音楽賞、ホテルオークラ賞、ワシントン賞受賞。二期会会員。

Marianne Beate Kiehlund, alto

マリアンネ・
ペアーテ・
キールラント

ノルウェー国立音楽アカデミーで研鑽を積み、2001/02年シーズンはハンノヴァー国立歌劇場のアンサンブルメンバーとして活躍して名声を高めた。北欧の主要な歌手の一人としてヨーロッパの数々のオーケストラや音楽祭に定期的に出演している。ヘレヴェッヘ、リリング、ホーネック、リフキンなど著名な指揮者との共演も多い。

Andreas Weller, tenor

アンドレアス・
ヴェラー
テノール

シュトゥットガルト児童聖歌隊出身。声楽・指揮法・合唱指揮を学び、ハンブルクではリートの荣誉賞付与ディプロマを取得。リュベック音楽アカデミーを経て、プレガルディエン、ゲイジのもと研鑽を積み、エヴァンゲリスト、オラトリオ歌手として国際的に活躍し、ヘレヴェッヘ、クイケン、リリングらと共演している。

Dominik Wörner, bass

ドミニク・
ヴェルナー
バス

シュトゥットガルトで教会音楽、フライブルクで音楽学とチェンバロを学ぶ。スイスにて歌とオルガンのディプロマを獲得。2002年、第13回国際バッハコンクール(ライプツィヒ)で優勝。オーケストラとの共演のほか、リート作品への興味も強く、現代曲の初演なども行うなど、レパートリーは多岐にわたる。

バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》

【日時】12月16日(土) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】モーツァルト:証聖者の荘嚴な晩課
【ヴェスベレ】ハ長調 K339

モーツァルト:レクイエム 二短調 K626
【出演】鈴木雅明(指揮) / 森 麻季(ソプラノ) / マリアンネ・ペアーテ・キールラント(アルト) / アンドレアス・ヴェラー(テノール) / ドミニク・ヴェルナー(バス) / バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)

【チケット(税込み)】 ※発売中
一般 S席 8,000円 A席 7,000円
学生 A席 2,000円
メンバーズ S席 7,200円 A席 6,300円